

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	潜水訓練中に救命ボートと潜水隊員が接触した事案
3. 体験した事例の中心的要素	ジャックスティ検索を行うため、新たにブイを設定しようとしたところ、船長がギアシフトレバーの操作を誤ったため、停止予定位置を超え、水面待機中の潜水隊員に船首から接触したものの。
4. 体験した事例の原因・理由	<ul style="list-style-type: none"> ・船長の技術不足(ギヤ操作ミス、緊急停止がすぐ行えなかった) ・支援隊を含めた危険予知欠如(進路に潜水隊がいたにもかかわらず、進行させた。) ・計画にない訓練内容の変更。(潜水隊員は環状検索後、岸に帰る予定を水面で待機させた。)

【体験した事例の直接的原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の実行に問題があった。(誤った手順を取った等)
------------------	---------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	令和4年9月13日 午前11時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外:ダム
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	激突
7. 事例体験時の活動	演習訓練、[救助(通常時)]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他:潜水訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[49]歳、勤続年数[31]年、現場経験年数[31]年、階級[消防司令補] 同様の活動 [1年に数度]、任務 [複数隊の隊長]
○当事者B	年齢[50]歳、勤続年数[31]年、現場経験年数[31]年、階級[消防司令] 同様の活動 [数年に1度程度]、任務 [複数隊の隊長]
○当事者C	年齢[49]歳、勤続年数[30]年、現場経験年数[30]年、階級[消防士長] 同様の活動 [1年に数度]、任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者A	環状検索の水中監視を終え、潜水隊員2名と岸へ戻ろうとしたが、水面待機の指示が出る。	
経過2	当事者B	水面監視を終え、ジャックスティ検索のブイ設定のため、第2ブイへ向け東側から進行。	
経過3	当事者A	第2ブイを使用して基線を設定するため、潜水隊員2名と共に第2ブイから第1ブイへ移動。	
経過4	当事者B	潜水隊員が移動したことを確認し、第2ブイへ接近する。	
経過5	当事者C	基線の設定を行うため、資機材の確認を行う。	
経過6	当事者B	接近しすぎたので、後進ギアに入れアクセルを吹かすが入り切っておらず、慌ててしまい誤っ	
経過7		て前進レバーにギアを入れたことで、前進して隊員に接触した。	
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？
- ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

危険情報を把握、予見できなかった 資機材の操作がうまくいかなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	はい
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

関係署所で船外機の取扱い要領を再確認し、エンジンの緊急停止要領の確認及び訓練を実施する。
また、プロペラガードを設置する。

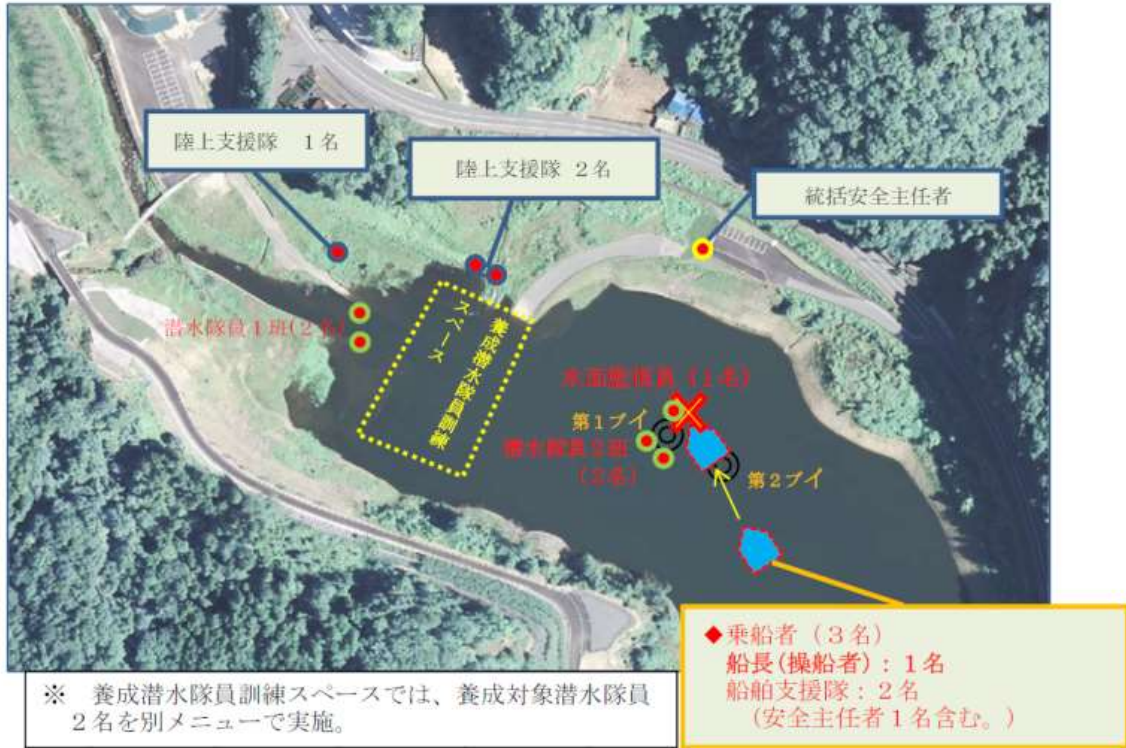
○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

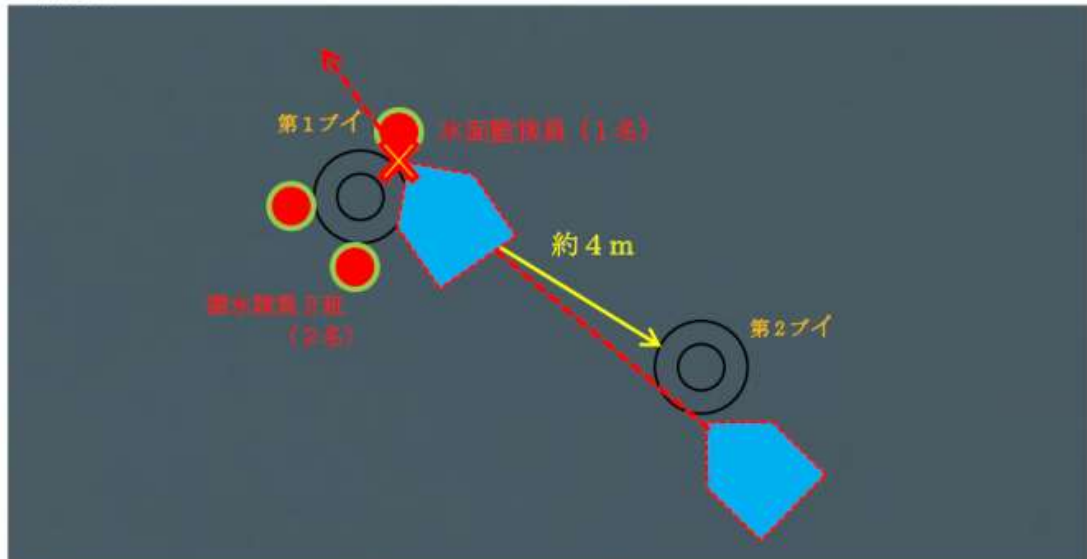
署で検討会議を行い、事故の原因を究明し、再発防止案を確立した。

配置図

事案発生時、ボート潜水隊員等の配置については、次の図のとおりである。



詳細図



※ 第1ブイについては、環状検索用として設定していたもの。